

Sustainable Development Goals

持続可能な開発目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD

地域のひろば

“安心と安全の福祉のまちづくりを”

×



ボランティア

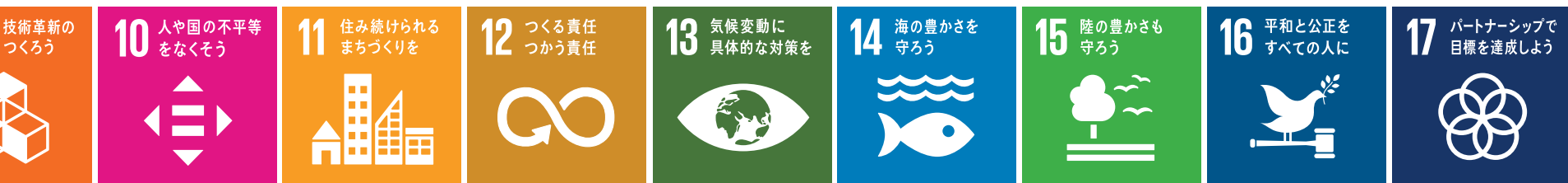
OSAKA

No. 92

府社協 地域福祉部 TEL.06(6762)9437 / FAX.06(6762)9487

福祉のおもしろさとは、人々が必要としていることを
想像して、創造すること
～学生がつなぐ地域の居場所づくり～

最近よく目にする 17 色のカラフルなロゴやバッジ。未来を豊かで活力ある社会にしていこうための道しるべとして、SDGs(エスディージーズ)の取り組みが注目されている。貧困、格差などのさまざまな問題はそれぞれ個人の責任ではなく、社会のひずみからおこっていることであり、社会全体で考える問題だ。「誰一人取り残さない社会」。あなたの住んでいる大阪でも SDGs に関連した地域活動が行われている。今回は、SDGs の「③ 健康・福祉」「⑪ まちづくり」に関連し、松原市で高校生が取り組む「子ども食堂」と柏原市で大学生が取り組む「認知症カフェ」の 2 つの取り組みを紹介する。



高校生による高校生のための子ども食堂 “松高きっちゃん” (松原市)

地域のボランティアが子どもたちに対し、無料または低額で栄養バランスのとれた食事や温かな団らんを提供する「子ども食堂」。今、全国で取り組みが広がっている。今回は高校生が取り組む子ども食堂を紹介する。活動をサポートする NPO 法人やんちゃまファミリー with (以下、やんちゃまファミリー) 理事長の田崎由佳さんに話を聞いた。

生徒のアイデアと、やんちゃまファミリーが考える栄養バランスで具材のチョイス



“松高きっちゃん”ができるまで

大阪府立松原高等学校 (以下、松原高校) がやんちゃまファミリーと連携し、2017年にスタートした子ども食堂。生徒を対象に月1回、校内の教室を利用して実施している。運営するのは、同校の生徒たち。きょうだい等も集まり、ネットワークが広がっている。

貧困の解決には信頼できる人に出会い、つながることが必要

活動のきっかけは、松原高校の必修授業である「産業社会と人間」を選択した生徒4人。授業の中で「子どもの貧困」について学び、ブラックバイトなどの身近な社会問題を知った。そこで、駅でのアンケート調査や市役所で生活保護を担当しているケースワーカーへのインタビューなどを実施。生徒は、貧困の課題解決には、信頼できる人に出会い、つながることができる場が必要だと気づいた。

支えられる側から、支える側へ

子ども食堂に参加した子どもたちが、感謝の気持ちを忘れず、今度は他の子どもたちを支える側になるなど、支え合いの輪が広がっていくことを願う田崎さん。

「松高きっちゃん」の運営を担う高校生は、いずれ卒業する時がくるため、担い手をいかに確保していくかが課題。

そこで、高校生たちが主体的にアイデアを出し合い、ボランティアに関する説明会を実施するなど、全校生徒に呼びかけている。

最近では、「やんちゃま食堂」に参加していた中学生が、松原高校の生徒と出会い、松原高校に進学し、子ども食堂の運営側に携わるなど、うれしい知らせが届いているようだ。

やんちゃまファミリーとは？

松原市を中心に、子育てや親育ちの支援、地域住民によるおたがいさまの助け合いや協力などをめざして、さまざまな事業を展開している。

地域や人とのつながりがうまれるようにカフェの運営や、子どもたちの居場所として子ども食堂なども実施。



理事長の田崎さん

親子まるごとサポートできる仕組みを

子どもたちの抱える問題は、すごく深刻で複雑なものが多い。「子どもの貧困は、決して家庭内で解決できるものではない。家族まるごとサポートできる仕組みを作ることが大事」と田崎さん。

「小学校区に1カ所は、子ども食堂を展開し、中学校での居場所づくりも進めていきたい」と目標を語る。

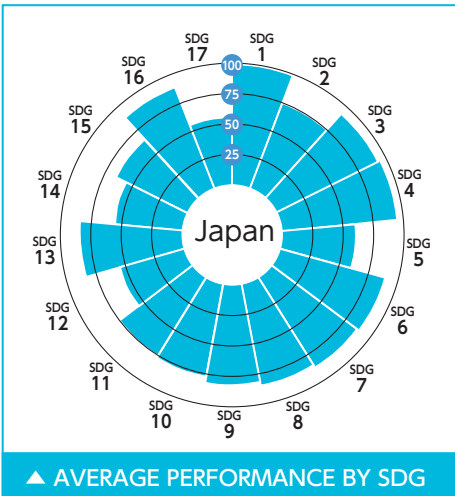


ブラックバイト

学生・生徒に対し、長時間労働など、学校生活や日常生活に支障をきたすようなアルバイト。例えば、テスト期間や就職活動中の出勤を強要されるなど。

日本の達成状況

2018 年版「SDG Index and Dashboards」より
ベルテルスマン財団&SDSN



SDGsとは

Sustainable Development Goals (以下、SDGs)とは、「持続可能な開発目標」。国際社会が貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するため、「誰一人取り残さない—No one will be left behind」を理念として、17の目標（ゴール）を設定している。この17の目標がSDGsだ。

SDGsの取り組みは、17項目と多岐にわたり、福祉分野だけではなくさまざま。国連に加盟している全156カ国のうち、日本は第15位で、アジア圏ではトップ。

日本は「① 貧困をなくす」、「③ 健康・福祉」、「④ 教育」が高評価。

ちなみに世界トップ3はスウェーデン、デンマーク、フィンランド。さすが世界幸福度ランキングの上位国だ。

普遍性

みんなにあてはまる

統合性

大きな視野で
さまざまな面から

SDGsの5つの性質

参画型

みんなが主役
それぞれの役割
をもって

包摂性

取り残さない

透明性

わかりやすく
みえやすく

5つの性質は、平成31年1月の外務省の資料の引用です。

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と基盤を



大学生がプロデュースする認知症カフェ 「ほのぼの」(柏原市)

関西福祉科学大学バリデーション・プロジェクト(以下、プロジェクト)は、認知症高齢者とのコミュニケーション法の「バリデーション①」を身につけ、それを支援に生かすため、さまざまな活動を実施している。今回は、認知症カフェ2カ所のうち、最初にスタートした柏原市社会福祉協議会(以下、社協)と協働運営する認知症カフェ「ほのぼの」の取り組みを紹介する。



古民家、施設を拠点に、くつろぎの場を提供

認知症カフェ「ほのぼの」が立ち上がったのは今から5年前。学生が「バリデーションの実践がしたい」と都村尚子教授に相談したことがきっかけだ。当時、柏原市内に認知症カフェがなかったこともあり、大学から社協に開設を提案。

地域の古民家では月に2回、近隣の社会福祉法人では月に1回、プロジェクトに所属する学生を中心に企画・運営している。

認知症のお年寄りとその家族、地域住民などが参加し、お茶を飲みながらホッとくつろげるコミュニケーションの場になっている。

自由な発想で新たなチャレンジを！

プロジェクトでは、これまでの5年間の活動を踏まえ、新たな取り組みとして、認知症カフェに来ることができない方の送迎や、中高生にプロジェクトの活動を知ってもらうための出前講座などを検討している。

都村教授は、「バリデーションによるコミュニケーション技法を基本に、学生を中心に自由な企画にこれからもチャレンジしてほしい」と期待を寄せている。

①バリデーションとは？

認知症高齢者の感情に焦点をあてたコミュニケーション技法。尊敬と共感をもって関わることで自尊心を回復し、引きこもりに陥らないようにするとともに、介護者の負担を軽減する。



活動の中で感じたこと



同じ話を何度も繰り返す認知症のお年寄り。バリデーションの技法でコミュニケーションをはかり、その人の思いの一端をくみ取ることができた。

認知症の方とのコミュニケーションがうまくいかないこともあった。でも、回を重ねる中で自分のことを少しでも覚えてもらえたり、笑顔が見られた時にやりがいを感じた。

偶然カフェに立ち寄った地域の方から、家族の介護の苦労や悩みを打ち明けてもらった。「話をして気持ちが楽になった。もっと早く認知症カフェのことを知っていればよかった」との声を聞き、居場所づくりに携われて良かったと思った。

実践を通じて、座学では深めることのできない認知症ケアを学ぶことができた。

人を笑顔にする仕事

ふくして、普段の身近な暮らしに関わっている。



地域で必要とされる取り組みを生み出すことがおもしろい！

日々新たな発見やチャレンジの機会があり、ワクワクすることがいっぱい！！